

健康平和研究

24年第3章 超近代を創る

歴史自覚 1 超近代への理論と実際組織 6
民族地理学から 13 山田未来構想 20

24年4月16日号より

(や＝山田 学)〔☆★歴史自覚★☆☆JO
MONあかでみいサイトの更新が、遅れに遅れ、たいへん失礼いたしました。

山田 学が、自宅転居し、予想以上に、多くの時間をとられたからです。

ヨガの沖 正弘師に対し、先輩弟子にあたる、やましたひでこ先生ではありませんが、わたしの人生においてもっとも大きな、本・資料・物品の断捨離も、いたしました。もともと、ものごとの整理が好きなわたしは、この断捨離にて、予想外の楽しさも、体験しました。とくに、本と研究資料について、もともとそれらは、それなりに整理し、部屋のあちこちに置いてあつたのですが、今回、一気に整理し直してみると、それにとりまひ、自身のこの数十年の記憶も、しっかり整理される！

そこに、無上の楽しさも、ありました。転居先は、ある海浜ですが、日本と地球の大きな変化が予想される、これから数年間、その海を眺めつつ、わたしの活動の、選択と集中が、より鋭敏となります。

そしてわたしの内心にて、あるひろく深い自覚も、生成いたしました。

断捨離と転居の後半は、一種の苦行でもあり

ました。この27年間半にためた、“ごみ”の処分が、予想をはるかに超えた、作業量でありました。“ごみ”の処分に関する、行政や一部民間の現在形についても、一定の体験をいたしました。

以下、山田 学の内心にての、あるひろく深い自覚から、発言させていただきます。

＊

せつかくのインターネットですが、かへつて、情報が混乱してゐる面も、あるかもしれませぬ。

この数万年間、とくに、この数千年間、人間社会史は、どういふものであつたか。

そしてこれから、人間社会は、どうなるのか。あるいは、どうすべきものなのか。

〈悠久壮大な歴史自覚〉の、問題です。

この思索を整理するには、しかし、次の3つの注意点が、必要です。

①人間社会はそもそも、主体性の変化により、三重の構造である。この三重の区別と連関を、明確にしてこそ、思索を整理できる。

②今がまさに、人間社会史の大転換期であると、予想される。むしろ発想の大転換があつてこそ、思索を整理できる。

③地球人は実は、宇宙において、後進生物であるにすぎない。そのことについて、まもなく情報公開されると、予想される。人間社会による学問を超えた現象に、直面することも、織り込んでこそ、思索を整理できる。

①三重の構造について、解説します。

人間社会は、〈労働による生産→認識による

表現→規範による調整〉といふ、主体性の変化により、三重の構造である。

【い】人間社会は、まづ、生産の社会が、ある。労働による生産の社会、である。

【ろ】その生産の社会のうちに、認識表現の社会が、ある。認識による表現の社会、である。

【は】その認識表現の社会のうちに、規範の社会が、ある。規範による調整の社会、である。

【い】生産の社会は、16世紀以降に西欧人が主導した、近代化により、地球表面が統一されつつある。近代化は、生産のうちの〈交通〉(＝建築・運輸・金融・通信・提案)の発達であり、これにより、地球表面が統一されつつある。

が、【い】生産の社会の近代化にて、資産増殖欲を、駆動力とした。近年は、ICT(情報通信技術)のメガテックなどが、発達を牽引しはした。ので、世界経済フォーラムなどは、ICTや遺伝子工学などによる、機械的な地球統制に、その発想が、とらはれてゐる。これは、【ろ】認識表現の社会を、無視するものである。【ろ】認識表現の社会史にて、〈諸民族性への分化と攻防〉は、必然であつた。ので、世界経済フォーラムなどに対抗し、〈諸民族の自立と協同〉への運動も、興りつつある。

【は】規範の社会は、それぞれ軍事を背景とした、諸国家が、攻防してゐる。が、【い】生産の社会にて、地球表面が統一されつつあ

るため、国際大企業が、国際機関などへの献金を通し、諸国家全体をも統制せむ、といふ動きがある。

理想は、【は】規範の社会として、人民個人に帰り、からだところの健康、ところと社会の平和、合せて〈健康平和〉への道徳（生活規範）を、追求しあふことではないか。これにより、まづ、諸個人の自立と協同を、めざしあひたい。

やがてはやがては、【ろ】認識表現の社会にて、諸民族の自立と協同も、可能なのであらう。

【い】生産の社会も、地球表面統一への仕上げとしての、〈交通〉（とくに、提案）は、まうはや、資産増殖欲や、ICT・遺伝子工学などに、期待できない。

この意味にて、思索整理の注意点②発想の大転換が、必須である。

西欧人主導の近代から、われらが日本人主導の超近代へ!!! 発想の大転換が、必須である。日本列島は、人間が生活しやすい自然環境に、ある。ので、〈一万年以上の、戦争を知らぬ、縄文時代〉、も成立した。これこそ、他民族には、ほとんど無い、平和性の記憶なのである。〈諸民族調和へ仲介する道〉を、創造しやすいためである。とくに、子どもを産み育てる、本能において賢い、女性において。

実は、〈われらが日本民族発の超近代＝資産循環の時代〉、を創ることが、われらの歴史的な役割なのだ。

〈健康平和〉への道徳の基礎は、人民個人の、

おのおのが、四六時中、瞬間瞬間にて、自身の体内の生理を認識し、生理にしたがひつづけることです。そのやう、〈冥想しつつ生活する〉ことです。不断の生理への冥想こそ、だれもが悟り救はれる道なのです。実はこの数千年間、諸国家といふ規範が、この単純明快な基礎を、人民から失念させてきました。あらためて、この基礎に協力する、教養や体験や物品を、流通させる事業を興し発達させる。貧困な顧客のための寄付も、加味し、資産を循環させる。資産増殖欲や、ICT・遺伝子工学などへのとらはれから、^{けだっ}解脱する。かういふ、発想の大転換が、必須です。

〈悠久壮大な歴史自覚〉の大前提として、情報が公開されつつあります。

数千年来、金銀財宝などの移動（＝裏帳簿）により、世界史を調整してこられた、〈水面下の主体〉が、実在します。（カバールやディープステイトより、さらに深い主体です。）実はその中心が、われらが日本民族のご皇統と、欧州ハプスブルグ家なのです…………

諸国家との関係にて、嚴重に封印されてきたこの事実も、今こそ公開すべしと、故・高松宮殿下らのご希望により、出版されつつあるのが、落合莞爾先生です。（『天皇とワンワールド』『天皇と黄金ファンダ』『天皇皇統になりすましたユダヤ十支族』など）

思索整理の注意点③宇宙についての情報公開、については、多言しませんが、ラッセル・ヒルベルト・アインシュタインといふ、20世紀初頭からの、数学的な物理学的な哲学の

限界について、自覚せざるをえぬことは、必ずです。

以上、山田 学の内心にての、あるひろく深い自覚からの、伝言でございます。]

24.7.19.より

（や）〔☆☆超近代への理論と実際組織☆☆
☆☆社会の激動が予想される、今において、さまざまなものごとの「素性」を確認してゆくことが、大切です。たとへば、国家とは本来、どういふものか。

先月、JOMONあかでみいサイト「店頭」画面にて公開した、次の文章を、お読みいただけましたでしょうか。ご検討いただけましたでしょうか。

〈はるかな健康平和への祈り〉

ひとりひとり迷ひの近代から脱出する提案

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/inori_fine.pdf

本文（7枚）<http://www.jomaca.join-us.jp/inori.pdf>

この文章の最終項冒頭に、かう書きました。]

（〈はるかな健康平和への祈り〉本文7ページより）〔

諸国家の攻防の時代の終末を祈り、単純な目的の確認です。

生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。]

（や）〔むろん、この数千年間の諸国家の攻防の時代を、終末へと推進するには、国家とは本来、どういふものか、について、本格認識が必須です。

幸ひ、日本社会は在野にて、滝村隆一師（19

44～2016) 著の次の理論を、保持してをります。

『国家論大綱 第一巻 上』(勁草書房2003年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11852558>

『国家論大綱 第一巻 下』(同2003年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11869891>

『国家論大綱 第二巻』(同2014年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g16691754>

『ニッポン政治の解体学』(時事通信社1996年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11169680>

これらこそ、日本社会が、人間社会の歴史に誇るべき、珠玉の本格理論であると、山田学は考へます。さういふことなのだ！と、早く気づく若い人びとが増えることを、切望いたします。

次に、先の引用にある、〈生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。〉生産の社会、すなはち、労働による生産の社会の本質は、人民がおたがひに、各種生産物を媒介とし、良くも悪くも、おたがひの生活を生産しあつてゐることです。人民自身がそのことを、どれほど意識してゐるかは、別として。なら、生産の社会の本質から、〈生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。〉といふ、単純な目的を確立すればよろしい。〈健康平和な〉といふ基本用語については、〈はるかな健康平和への祈り〉の本文前半にて、規定してをります。人民ひとりひとりが、この単純な目的を確立し、意識してゆくことこそ、

資本制社会のあらゆる問題を解決してゆくための、起点です。社会の運営や指導について、あれこれ構想する前に、必須の起点です。たとへば、マルクスの学問・思想には、これが不足してゐた。

16世紀より、西欧民族主導にて、資本制社会が発達してきた。それを土台とし、17世紀より、西欧民族主導にて、国民国家思想(ホブズ、ロック、ルソー、カントら)を創出しつつ、実際に国民国家を創出してきた。が、諸国家の攻防の時代は、続いてゐる。

諸国家の攻防の時代を、終末へと推進するには、社会にて国家活動の及ばない範囲、つまり民間からこそ、〈次の時代の公共〉を創出してゆく必要があると、山田は結論しました。この意味にて、1917年ロシア革命以降のあらゆる共産主義・社会主義・社会民主主義国家には、限界があると、考へます。

着目すべきは、資本制社会の発達において、商品内容(物品ないし活動／労働力／株式債権寄付)が、どう発達してきたか。第1次・2次・3次・4次産業などと言はれてきたが、その延長にこそ、最終商品として、社会の健康平和な運営や指導といふ活動の事業が、可能ではないか。

次に着目すべきは、国民国家の活動内容が、どう発達してきたか。それには、統治(外交・通商貿易・金融政策・軍事・治安警察)と、行政(それ以外)とが、ある。まづ、行政内容の社会政策や経済政策などを、無理なく、無駄なく、民間の〈次の時代の公共〉へ、止揚

(形式は否定し内容は保存)してゆく。統治内容の止揚は、諸国家均衡(仮の平和)のため、将来のこととなります。

近代の国民国家の場合と同じく、超近代も、まづ理論を創出しつつ、実際の組織を創出してゆきます。とくに、近代の人権思想の中途半端を、超える。〈人民の健康平和な生活を保護し推進する地球公会規範〉。これを、現実冥想(健康平和な、現実の認識の、蓄積)にて、どう創出できるか。これを中心とした、『地球公会の理論』を創出しつつ、実際に地球公会を創出してゆく。

むろん、時間がかかる事業ではあります。が、不可能ではない事業であると、考へます。なぜなら、先述の滝村国家論にて、諸国家の歴史の本質が、現実の認識として、すでに明示されてゐるからです。さういふことなのだ！と、早く気づく若い人びとが増えることを、切望いたします。(「超能力者の救世主が、瞬間芸にて地球救済するのを、期待する…」なんぞは、夢想です。地道な理論創出と、実際組織創出が、必須です。)

資本制社会はすでに、国境を超えた、地球表面統一を、志向しつつあります。今のGAFAMや世界経済フォーラムなどは、しかし、ICTや遺伝子工学などにも、とらはれてをり、彼らに、〈人民の健康平和な生活を保護し推進する地球公会規範〉の創出は、無理でせう。逆に、人民の健康平和な生活を妨害してでも、自己の資産増殖に、とらはれてゐる面があります。

滝村国家論に限らず、諸国家の攻防の時代を、終末へと推進する起点として、実は、わが日本社会（主に民間）がもっとも、さまざまに豊かな条件に、恵まれてゐるのです。が、今の「日本国」は実質、〈米国統治下の自治行政区区域〉です。〈自立国家〉ではありません。1776年に英国から独立宣言する前の、米諸州に、似たところもあります。わが幕末維新のやう、なるべく混乱の少い過程にて、日本国統治の自立強化と、日本国行政の地方分権化が、必須です。一部行政の民営化も含む、われわれの〈超近代開拓運動〉を、保護し推進するためでもあります。

ヨガの沖 正弘師 (1919～1985) は、戦中1939年に、陸軍スパイ任務の必要上、インドのマハトマ・ガンジー師のもとに、長期滞在しました。のち1942年には、陸海軍の将軍に、ヨガを説いてゐます。その沖師が終戦後、どういふ心境となつたか。沖師著から、引用いたします。]

（『生きている宗教の発見だけでも悟り救われる沖ヨガ修行法』竹井出版1985年・30ページ）〔終戦を境にして私の心は百八十度変り、人類の争いに対して大反省の心が起りました。なぜ戦争が起るのだろうか、戦争をしないようにするにはどうしたらよいのだろうかと深く考え、そこで再びガンジー聖師の平和思想を学び直す心になりました。そして戦争の問題を考えたときに、私の気づいたことは、全人類は懺悔心（おわび心）と愛し合う心を持たなければ救われ

ないということでした。お互い同士がわびあうのです。兄弟でなぜ戦わなければならなかったのだろうか、とわびあう気持を持たなければ救われる道は開かれませんか。]

（『実践冥想ヨガ生活篇』日貿出版社1978年・79～80ページより）〔私の心には戦争をすることはいけないのだ、ということよりも「なぜ人間は戦争をしてしまうのだろうか」「どうすれば、戦争をしない人間が作られるのであろうか」という願い心が生まれてきて、また世界平和が欲しいという願いよりも、「なぜ世界平和が与えられないのであろうか。どうすれば世界平和を実現しうる人間が作られるのであろうか」との疑問と願いと祈りを求める心が生まれてきました。とくにこの心が強く起きたのは、引揚直後、私の本籍の広島の悲惨を見たからでもあります。]

（や）〔わたしは20歳代にて、上記沖師文言を、胸の奥に刻み、右翼から左翼まで、科学から宗教まで、学者から民衆まで、縦横無尽に探検しました。さうしてやうやく先月、『地球公会の理論』へ向けての、最初の呼びかけ文たる、〈はるかな健康平和への祈り〉執筆に、たどりついたわけです。日本列島の純情な日本民族が、社会防衛のための富国強兵として、大日本帝国を創出し、のち、日独伊三国同盟などにより、ファシズム傾向も浸透し、あげく、敗戦した。ついでに、ヒロシマ、ナガサキまで、体験させられた。さういふ極限体験を、語り継ぐ情念としても、わが日本社会は、

諸国家の攻防の時代を、終末へと推進する起点として、ふさはしいのではないでせうか。突然ですが、週刊ポスト誌に、次の記事見出しが躍りました。]

（週刊ポスト2024年7月19／26日号・112～113ページより・見出し）〔

小泉進次郎が「UFO機密」暴くか

「安全保障上の深刻な脅威」——ついに超党派議員連盟が立ち上がった]

（同小見出し）〔政界が本腰を上げてUFO（未確認飛行物体）に向き合い始めた。空飛ぶ円盤＝「宇宙人の乗り物」としてロマンを掻き立てたのは過去の話。いまや「安全保障上の深刻な脅威」として喫緊の課題のようだ——。]

（同本文より）〔今年5月、超党派の国会議員有志89人による「安全保障から考える未確認異常現象解明議員連盟」（通称「UFO議連」、会長＝浜田靖一・自民党国対委員長）が立ち上げられた。]

（や）〔同議連幹事長・小泉進次郎氏と事務局長・浅川義治氏は、神奈川県選出であり、神奈川県民のわたしとしては、“身近な”話題でもあります。わたしは、両氏それぞれの、政治立場に、賛同する者ではありませんが、超党派として、重要な動きであると、認識します。〈はるかな健康平和への祈り〉にも、かう書きました。]

（〈はるかな健康平和への祈り〉本文7ページより）〔なほ、地球人は、宇宙において、まだ

後進生物であるに、すぎません。その現実を正視する準備としても、現実冥想と現実愛の積み上げが、必須なのです。]

(や) [せつかくのマスメディアや、また、インターネットに、架空の認識も、あふれてゐる。

将来の〈地球公会の時代〉へ向け、宗教も、哲学も、政治も、それに含まれる、架空の認識の部分については、しだいに、必要としなくなる状況が実現すると、わたしは想ふのです。]

24.8.15より

(や) [☆★民族地理学から★☆☆今のGAFAMや世界経済フォーラムなどの行動から、「グローバリズムは、悪いものではないか。」とする論調も増えてゐます。その論調には確かに、根拠があります。

が、GAFAMや世界経済フォーラムなどからは、まったく離れ、逆に、〈諸民族の自立と協同〉を保証する方向の、健康平和な地球表面統一なら、むしろ歓迎すべきではないでせうか。われわれの〈超近代開拓運動〉は、後者をめざすのです。

〈諸民族の自立と協同〉を保証するには、むしろ、民族学ないし民族地理学についての、本格理論が必須です。幸ひ、日本社会には、川喜田二郎師 (1920~2009) による、次の著などが、準備されてゐます。

『素朴と文明』(講談社学術文庫1989年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g10585468>

『環境と人間と文明と』(古今書院1999年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11432837>

『野性の復興デカルト的合理主義から全人的創造へ』(祥伝社1995年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11083861>

ここでは、川喜田師による原理的ご主張を、わたしの立場から、整理し直させていただき、述べさせていただきます。

＊

各民族は、地球各域の気候風土や生物系の特殊性に、対応し適応しつつ、生活し生産してきました。それにふさはしく、家族から国家までを組織しつつ、言語や宗教などを発展させてきました。この、気候風土から宗教までの全体系を、民族生態系、と呼ぶことにいたします。

われらが〈超近代開拓運動〉は、〈諸民族の自立と協同〉こそを、めざします。そのために、諸民族の伝統を、なるべく、実証的かつ本質的に、ふりかへります。

さうしてさらに、〈諸民族生態系の必然を相互尊重する社会〉、これを創造するのです。各民族の自民族からは、絶対的な、各宗教や、各言語的世界観についても、相対化させていただきます。

それらは、人間が地球各域へ、適応し分化した、〈各民族生態系の結果〉としての、各宗教や、各言語的世界観である。さう理解して、相対化させていただきます。

さて、人間は、永遠に、小集団の愉しさを、大切にしたい生物です。

そこから、各種の社会主義・共産主義(コンミュニオン主義)なども、発想されたのです。が、「個人がある小集団の愉しさに帰属する」のみでは、また、「さまざまな愉しい小集団の寄せ集め」のみでは、結局、何万人何億人の協同社会が、実現しないのです。

まことに残念ながら、人間社会はまだ、この最重要問題を、解決してゐないのです。あのマルクスを含めて、です。川喜田二郎師からの、この問題提起を承け、山田 学は次のやうに、思索し、情念いたしました。

この問題解決には、次の三方向の追求が、必須です。

①〈生理本位の諸個人の自立と協同〉を、追求する。

②そもそも、この数千年間の、諸国家の攻防の時代を、終末へと推進する。その代りに、個人の生体・情感・情念・思考を、健康平和に保護し推進する、さういふ、社会の組織ないし制度を、追求します。その究極は、地球公会といふ組織ないし制度、です。

③①の新しい個人原理確立と、②の新しい制度原理確立の、あひだにてこそ、やうやく、〈さまざまな愉しい小集団の、区別と連関〉が、実現できてゆきます。

この①②③が、われわれの〈超近代開拓運動〉です。その端緒を、次に表明いたしました。(JOMONあかでみいサイト「店頭」画面内)

〈はらかな健康平和への祈り〉

ひとりひとり迷ひの近代から脱出する提案

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/inori_fine.pdf

本文（7枚）<http://www.jomaca.join-us.jp/inori.pdf> きて、〈超近代開拓運動〉といふ問題解決こそが、現代人の新しい生きがひ、ではないでせうか。

山田 学は、超近代を開拓させていただきます。今までのわたしの人生のあらゆる特異なご縁、その結果としての、山田 学の義務なのでございます。]

（〈はるかな健康平和への祈り〉本文5ページより）[…部族国家発生後、この数千年間の地球、すなはち、諸民族闘争などの、特異な時代を、相対化する、平和性の原点が、日本民族には、あるのです。日本民族の伝統を、反省し、諸民族の自立と協同へ、仲介のあり方も、創造します。今からの超近代にて、西欧民族を相対化し、日本民族が仲介し、諸民族の自立と協同を、追求する。この追求を、縄文風平和、と呼ぶことにします。…]

（や）[日本民族の伝統を反省することも、川喜田師に学べます。

川喜田師著『素朴と文明』の「第二部 日本誕生——生態史的考察——」は、日本民族の成立史について、実に興味深い、総観です。

北方からの刺激、すなはち大陸のアムール川（黒龍江）あたりからの、影響。南方などからの海上の道において、また、日本列島内の河川において重要な、水界性の船・舟の文化。日本民族の成立史について、これら2点を、今の日本知識人は、見落としがちである。そして、とくに663年の白村江敗戦以降、陸界性

の騎馬軍を、どのやうに強化したか。

落合莞爾先生の

『京都皇統の解禁秘史天皇とワンワールド』(成甲書房2015年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g17387170>

などにも学んだわたしは、川喜田師による日本古代史理解に、全面賛同しかねるところもありますが、それでも依然として、実に興味深い、総観なのです。

そして川喜田師の東南アジア観にこそ、注目すべし。(ただし以下の引用文章は、日本のバブル崩壊より前に、書かれてある。)]

（『素朴と文明』文庫版208～209ページより）[…倭人をもって日本列島だけの人びとと考えるのは、根本的錯覚ではないか。彼らは水界稲作民のことなのだ。その水界稲作民ないし倭人は、ひとつの大なる文化的伝統なのだ。その伝統はアジア種の稲の栽培化と共に、アッサム＝雲南地方で発生した。そうして東南アジアの大陸の河川や海岸や島々を含み、中国の華南・華中の海岸部・河川から朝鮮西南部、さらに日本の西半部にまで広がったのである。日本はいちばん遅く倭人伝統圏に入った部類かもしれない。

これがひとまとまりの広大な倭人圏だと見えなかったのは、文化をうんぬんするような知識人が、たいてい陸の視点からのみ水界を見るくせをつけていたからである。その色メガネないし偏見のために、水界による統一性が見えなかったのである。事態を

公平に見るためには、陸界・水界の両視点を併せた全体的視野が必要なのだ。さしあたり、陽のあたらなかつた倭人の立場の復権を強調せねばならない。以上が私の仮説である。

（中略）

まず第一に、倭人をもって、単一の民族かのようにきめこむのは問題である。ふつうの意味での諸民族が、もう次元上のところで、もっとルーズながら、もっと大規模に伝統を共有する。そういう例が世界にはたくさんある。]

（同214ページより）[日本人は劣等感のゆえに模倣ばかりする民族だといった、はなはだ月並みでしかも根強い意見がある。そこに一面の真理を認めるとしても、それだけではたぶん本当のところは見えてこないであろう。文化のパターンには、自己主張ばかりする凸出型の文化の他に、倭人文化圏のような凹み型の文化もあるのかもしれないのだ。そうして日本の庶民層にはその底流がある。これが他の諸条件と相俟って、今日世界の諸文化のルツボとなり著しい文化成長の先頭に立っている日本の、その謎のひとつなのかもしれない。]

（同344～345ページより）[…一度ぐらゐは陸界と水界を、陰画と陽画のように焼き替えて見た方がよい。そうすると、日本・韓国・台湾・香港・シンガポールなどがNICS諸国としてまとまって見えてくるだろう。ホフハインズらがいふような儒教文化圏では

ないのだ。いわゆるNICSに日本をも一枚加えて、よく見よ。これは現代における倭人文化圏なのだ。そうして、国際不景気のあるたびに、それを境に相対的に繁栄してゆくのがこの倭人文化圏であり、相対的に沈下してゆくのがその他の既成文明圏なのである。だから倭人共通伝統圏というのは、遠い昔にだけ意味のあったものではなく、近い将来にますます重みを増すだろう存在なのである。]

(同362～363ページより) […このような生きる姿勢の探検のためにもその母胎ともいべき生態史的パターンの多様性はもっと探検されるべきであろう。その一例としても、私は倭人世界について「凹み型の文化」という考えを提案してみた。

なぜ湿潤熱帯である東南アジアが、高等宗教という一指標だけでは、一見モザイクなのか。ヒンズー教・テラヴァーダ仏教(南伝仏教)・北伝仏教・イスラーム教・儒教・カトリック教などが、入り乱れている。それは東南アジアが「何も持っていなかった」からではなく、実は共通して凹み型の伝統をしっかりと持っているからであるのかもしれない。そこにわれわれは、価値ある将来の宝物を見いだせるのかもしれないのである。]

(や) [米国も、中国も、再びの大不況への突入が予想される今、日本のバブル崩壊前の、川喜田師による東南アジア観に、再注目することは、とても有意義ではないでせうか。し

かも、最後の指摘にあるやう、〈超近代開拓運動〉として、各宗教を相対化させていただく、最初の実験場ともなりうる。]

23.12.22.より

(や) [☆☆山田未来構想☆☆この11月26日に、ある団体向けに、わたしが発表した、スライドがあります。その内容を、ここでは、一般向けに編集し直し、公開いたします。

地球の大調和へ、日本の自立へ、あなたの現状なりに、声を挙げるべし! 50年以上の偏らぬ取材

もとづく、たたき台を、山田 学が提供いたします。

まづ、山田 学とて、何者か?

わが父は陸軍士官学校だつたが、シベリアに抑留された。「ソ連思想に賛成せねば、生きて帰れぬ…」といふ情況のなか、父はその「優等生」となり、帰国。「左翼闘士」とはなつた。が、当時の日本共産党の大混乱に、深く傷つき、活動から離脱。ベンチャー事業家に、転身しました。

わたしが高校2年の夏休み、父は、「おれが生死の境にあつた、シベリアを見学して来い!」と、旅費をくれた。訪れたのが、田舎町だつたこともあり、当時の日本より、一般人の生活が、とても貧相なのに接し、当時の日本マ

スメディアによる、「ソ連礼賛」から、^{けだつ}解脱した。

それでも、〈そもそも、資本制社会の問題は、どのやうに、まともに解決できるのか?〉。だれにも、なににも属しない、その孤高の探究が、人生の最高の目的となりました。

民族地理学の川喜田二郎師が、提唱した、〈探検の五原則〉。その第一原則「360度の視覚から」取材せよ、に習ひ、右翼系から左翼系まで、科学から宗教まで、学者から民衆まで、50年以上、縦横無尽に、探検し、思索し、情念してまゐりました。

その結論は、今のマスメディアとは、正反対……

自身の身を守るためにも、積極的には、発表してきませんでした。

山田 学未来構想三部作

〈道徳復興～ヤマト平民会議への想ひ〉

<http://www.jomaca.join-us.jp/omoi.pdf>

〈地球公会への道〉

<http://www.jomaca.join-us.jp/michi.pdf>

〈地球人の無知を知れ!〉

<http://www.jomaca.join-us.jp/shire.pdf>

なほ、収益は、父から継いだベンチャー事業により、得てまゐりました。

公式サイト『氣功の工務店～文明退化なほす縄文智』

<https://tsugie.net>

また、山田の最終学校歴は、東大工学部中退。コンピュータと人間の、区別と連関について、学外にて、独自の本質研究を、したかつたか

らなのです。
昭和31年3月に名古屋（秀吉の生家の近く）にて生まれました。

＊
〈地球統治の必要を超えた戦争〉が、増えてゐる。米国軍事産業といふ供給体制によつての、“有効需要”を追求する、ケインズ政策…としての、まさに非道な戦争！ “「世界同時革命」のトロツキスト”が、米国軍事利権にからめとられた、米国ネオコン…

そして、米国は今、SNSなどによる、「第二の南北戦争中」なのだ。道徳は、風化した！

日本民族にとり、すでに、〈反面教師〉でしかない！ 日本国の政治家・官僚は、このやうな国家を、“主君”とは、するな……

戦後日本は、戦争放棄のみでなく、皇国史観や教育勅語などを、放棄した。代わりに、（欧米において当然な）キリスト教の教育を、導入したわけでもない…… 道徳が、空白化した！

そして、とりあへず、「GDP増大闘争」に集中した。が、その成果も、海外に巻きあげられつつある…

民間にて、〈道徳復興＝日本民族の誇りの復興〉こそが、経済巻きかへし意識の起点ともなる！

ところで、戦後マスメディアを支配した、「左翼系」について。

事実は小説よりも奇なり！ 〈マルクス、エンゲルスによる、根源からの地道な学問〉といふものは、あつた。が、彼らの目的にとり、

彼らの生前に実現できたことは、ごくわずかな端緒のみ、なのであつた。

その素朴な実像を、完璧に隠してしまつた、犯人がゐる！ レーニン以降の「共産主義」「社会主義」「社会民主主義」のほとんどこそが、その犯人なのだ。したがつて、レーニン以降のほとんどの流れにより、資本制社会の問題を、まともに解決できるはずも、ない…のだ。

資本制社会末期の今こそ、マルクス、エンゲルスの素朴な実像に、学べる部分も、ある。が、彼らに大きく不足してゐた概念こそは、〈健康平和〉。=ここを介した、健康と平和の連続性=からだところの健康～ところと社会の平和 山田はこれを、ヨガの沖 正弘師（1919～1985／陸軍中野学校の教官でもあつた。）に、学びました。

そして、山田 学は、人間の生理構造（ヨガのチャクラ）

から発想し、〈自然な社会構成〉を、提唱いたします。

〈思索の三面と情念の一面〉
思考～脳下垂体あたり＝アジナ・チャクラ→学問発達体といふ〈思索〉組織を、構想
生体～会陰あたり＝ムーラダーラ・チャクラ→生産調和体といふ〈思索〉組織を、構想
情感～肚・丹田・小腸あたり＝マニプラ・チャクラ→道徳共同体といふ〈思索〉組織を、構想

情念～心臓あたり＝アナハタ・チャクラ→民衆通信といふ〈情念〉組織を、構想

ところで、米国と中国が一蓮托生にて衰退してゆく、今から10年間！ 日本国統治の自立と強化（核武装なども検討）が、緊急課題。が、超長期にては、国家の本質を、考慮する必要もあり。

国家の本質は、民族闘争や、資産階級闘争を、調整するために、発展してきた、社会組織。＝残念ながら、闘争の存在が前提の、調整組織。

民間から〈もうひとつの公共〉として、諸民族調和と資産階級循環を、発達させる。それが進めば、国家といふ組織は、しだいしだいに、縮小させられる。最終は、必要性が無くなる。

よつて、〈この超長期のため、思索のまう一面〉

情念～心臓あたり＝アナハタ・チャクラ→政治解消世論といふ〈思索〉組織を、構想

＊

この5百年は、〈西欧人発の近代＝資産増殖の時代〉、

であつた。

すでに資産増殖の余地が、無くなりつつある。ので。世界経済フォーラムなどは、ワクチン、温暖化幻想、局地代理戦争などにて、無理筋の資産増殖を、試みてゐる。本音は、西欧人による支配を、継続するため、西欧人以外の

人口を、削減したいのだらう。

彼らはまた、化学や、遺伝子工学や、計測制御技術などに、とらはれてゐる。人間や他生物の生命。人間による世界認識。諸民族性の伝統の必然。これらを、まともには、理解できてゐない。

さういふ彼らによる、いびつな地球統制を、退散させるべし！

そもそも、地球人は、宇宙において、後進生物であるにすぎぬ。人間にとり、人間社会にとり、〈わからないものごとはある…〉と、悟らざるをえない。

それでも、〈眞智〉(健康平和な、現実の認識)にて〈聖愛〉(健康平和な、生活協力)しあひたい。

民衆運動を盛り上げ、諸個人の自立と協同へ、やがてはやがては、諸民族の自立と協同へ、進みたい。

＊

実は、日本列島は、人間が生活しやすい自然環境に、ある。ので。〈一万年以上の、戦争を知らぬ、縄文時代〉、が成立した。他民族には、ほとんど無い、平和性の記憶なのである。諸民族調和へ仲介する道を、創造しやすい！ とくに、子どもを産み育てる、本能において賢い、女性において。

実は実は、〈われらが日本民族発の超近代＝資産循環の時代〉、を創ることが、わ

れらの歴史的な役割なのだ。

資産階級格差の拡大は、〈信用寄付〉により、解決する。〈信用寄付〉＝次のみ、活用されることが、保証されてゐる、寄付。健康長寿を生産しあふ、流通～野性の復興～諸民族の調和

資本制生産から、資産循環へ。〈信用寄付〉による、〈寄付込資本〉へ。NPOなどを、発達させる。

リーマン・ショックからの“世界救世主”は、2009年の、中国による設備投資、であつた。が、それこそが、まさに〈恐慌の本質の歴史的典型〉を、準備してゐる……………!!! (恐慌の本質は、有益さが無いまたは少い生産の、過剰である。)

それら設備投資は、「人の住まない家、テナントの付かないオフィスビル、行き先のない道、対岸に届かない橋など」(ある方による表現)に、浪費されてゐる……………

また、中国民間の巨額利益は、ほぼ全額、共産党体制維持(＝賄賂)に、消化されてゐる。中国民間は、米国社会に対する金融奴隷のまま…

つまりは、こちらから破壊せずとも、向うから壊れてゆく…

すでに、〈創造〉が急がれる時機なのだ!!

わが日本民族が、〈諸民族調和へ仲介する道〉を、創造するため、諸民族性の伝統の必然を、理解すべし。これについて、山田は、民族地理学の川喜田二郎師(1920～2009)に、学んでまゐりました。

川喜田師はまた、〈一般に、問題解決には、どういふ過程的構造が、あるか?〉と、問うた。その本質は、〈判断→決断→執行〉。日本発にて地球のために、問題解決運動(判断→決断→執行のくりかへし)を、創始された。ただし、〈判断→決断→執行〉のうち、判断の過程については、実は、西欧による近代化さへも、まともな技法を、準備できてゐない。ご自身が、狭義のKJ法＝川喜田二郎法を、創始された。狭義のKJ法＝〈渾沌な現象から秩序ある構造へ予想する、研究事務技法〉。世界のあらゆる分野について、これを適用できる。とくに、民衆の情念と思索について、これを適用すると、日本民族の伝統風な衆智活用を、技法としてより体系化するものとなる。われわれの社会づくりは、ロックフェラー財団による医療支配から、解脱する。〈恋愛・出産・保育・教育・保健・看護・医療〉の、最高品質かつ最低費用を、求む。また、女性男性関係にて、〈野性の復興〉を求む。以上により、少子化を反転させる。

スマホとSNSなどにより、社会が個人に解体

したが…………… 〈諸問題を解決

しつつ、超近代を創る、

仲間づくり〉＝究極のサービス

産業こそが、日本の成長分野なのだ。

労働力の安さにとらはれ、諸民族性を軽視した、資本主義の移民要求は、行政や統治の負担が、増える。生産性向上は、まづ、〈上手

なICT活用〉から。IoT、統計AIと生成AI、ロボット、ブロックチェーン（改竄できぬ、記録の技術）。

さて、数千年来、金銀財宝などの移動（＝裏帳簿）により、世界史を調整してこられた、〈水面下の主体〉が、実在する。（カバールやディープステイトより、さらに深い主体）実はその中心が、われらが日本民族のご皇統と、欧州ハプスブルグ家なのである… 厳重に封印されてきたこの事実も、今こそ公開すべしと、故・高松宮殿下らのご希望により、出版されつつあるのが、落合莞爾先生。（『天皇とワンワールド』『天皇と黄金ファンド』『天皇皇統になりすましたユダヤ十支族』など）

めざすは、健康平和な地球、といふ結果。が、その結果へのすべての過程こそが、健康平和であるべし！

山田は1995年11月、「北一輝と2.26事件の関係」を、深く研究し、絶望した。日本民族における変革は、テロリズムしかないのか…… さうだ。まうはや、理屈ではない… ともかくも、〈希望の呼吸〉を産み出すことから、はじめよう。暗さのどん底なのに、暗さのどん底だから、明るくなるよね…（祈りのファンファーレを作詩・作曲した。）

明るくなるよね 明るくなるさ
仲良くなるよね 仲良くなるさ
賢くなるよね 賢くなるさ
エレガントに やさしく
エレガントに やさしく
エレガントに やさしく

次の社会を
ののしりあひ、いぢめあひ、殺しあひは、西
欧発の近代に属する。それらを超ゆる、われ
らが日本発の超近代を！

映画『宇宙戦艦ヤマト』より『ヤマトより愛
をこめて』詩・阿久 悠 歌・沢田研二

そのひとのやさしさが
花にまさるなら
そのひとの美しさが
星にまさるなら
君は手をひろげて守るがいい
からだを投げ出す値打ちがある
ひとりひとりが思ふことは
愛するひとのためだけでいい
君に話すことがあるとしたら

今はそれだけかもしれない
今はさらばといはせないでくれ
今はさらばといはせないでくれ

今はまう、特攻隊といふ非常手段も、必要と
しない、〈変革の道〉も、あるのではないか？

今はまう、全体主義でなく、まづ、愛する
ひとのためだけに、動きあふ。その小さな流
れが、大きな流れともなり、変革がありうる
のでないか？ そんな想ひを、〈君＝昭和天
皇陛下〉に、お話させていただきたい……

阿久 悠は、そこまでの意味を、こめてゐ
たのではないか……？（山田の勝手な想像）

山田 学個人は、民間より、迷へるダ
ヴォス会議でなく、〈ヤマト平

民会議〉こそを、興します。純情な
日本民族の、新時代の誇りなのです。全人民
にある、健康平和欲求。それを、理性的に、
解放させあつてゆきます。

日本民族の伝統風な衆智活用へ

地球の大調和へ、日本
国の自立へ、あなたの
現状なりに、声を挙げる
べし！

西欧を超ゆるやすらぎ創るべしヤマトの声よ
立ちのぼりませ]